

たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tamtam

2024.05
VOL.28

丹波市市民活動支援センター

学びを通じた人づくり



「楽しい」、「ワクワクする」をきっかけに、センセイと生徒と一緒に学び合う場。
「みんながセンセイ！ みんなが生徒！ まなびを楽しもう」をコンセプトに開催
した、『たんばまなびのマルシェ』の様子

特集

楽しさ・ワクワクを
生み出す学びの力

インタビュー

丹波市地域学校協働活動推進員
大槻 芳裕さん(丹波市立柏原中学校)

コラム

社会教育士をご存知ですか？

特集 楽しさ・ワクワクを生み出す学びの力

丹波市でも高齢化を伴う人口減少が更に進んでおり、単身世帯の増加や世帯規模の縮小が進むとともに、自治会などの地縁組織による活動は少しずつ縮小していくことが予想されています。今後は、活動のあり方や関わり方について、見直しが必要となってきます。地域における活動に様々な世代や立場の人に参加・参画してもらうためには、「楽しさ」や「ワクワク」といった前向きな気持ちが必要になります。

今号では「楽しさ」や「ワクワク」を生み出すための学びについて取り上げ、学びを通じた人づくりについて考えます。

学びは楽しさを生み出す

PDCAサイクルからAAR循環へ

活動やプロジェクトをマネジメントをする際に、PDCAサイクルという考え方があります。

PDCAとは、「Plan / 計画」「Do / 実行」「Check / 評価」「Action / 改善」のそれぞれの頭文字をとった用語です。計画↓実行↓評価とそれぞれのプロセスを順番に行い、最後のステップの改善まで終わったところで、また最初の計画

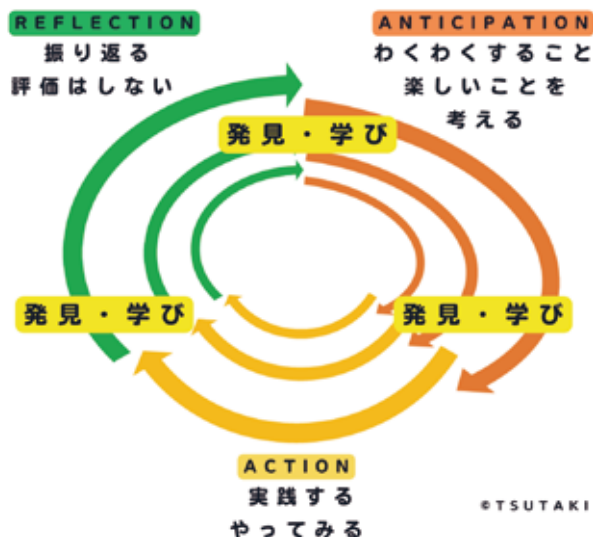
に戻ります。このサイクルを回しながら、評価をして改善を加えながら次の計画に反映していきます。このサイクルはうまく機能する場合もあれば、うまく機能しない場合もあります。例えば、マイナスイメージを生み出すことで、次のプランが小さなものになったり、新しいアイデアを生み出しにくくなることで、メンバー自身がしんどくなり、活動を続けられなくなってしまうです。

今回紹介するAAR*循環は、初めに「楽しいこと」「ワクワクすること」を考えることや、サイクルが短いことが特徴です。AAR循環では「A / 楽しいことを考える」「R / 実践する」「R / 振り返る」というの試行錯誤の循環を繰り返すことで、誰もが担い手として地域や社会で活躍できるようにするとされています。地域での活動においては、目標達成を目指すPDCAよりも、楽しいと思うことを実践してみるAAR循環の考え方が相性が良いと言えます。PDCAでは、反省や評価をするという流れになりますが、AAR循環では、うまくいかない場合においても、評価や批判はありません。振り返りをして、次はどうやってみようかと新たな発想が生まれることで、少しだけやり方を変えてみるができます。その循環の連続により、次へ、次へと広がりながら進んでいき、新しい発見や人との出会いが生まれ、地域や社会の中により良い状態が生まれていきます。そのため、「この試行錯誤のプロセスそのものが「学び」だと言われています。

* A: Anticipation A: Action

R: Reflection

外側に広がっていくAAR循環



実際は内向きに進んでいくPDCAサイクル



学びを通じた人づくりを担う コーディネーターの存在

学びを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくりを担うコーディネーターとして、地域学校協働活動推進員や社会教育士という存在がいます。丹波市では、地域の将来を担う人材育成事業として、地域住民のつながりを深め、地域全体で子どもの成長を支えていくことを目指し、地域学校協働活動に力を入れています。現在、丹波市内には小学校8校、中学校2校に合計で11名の地域学校協働活動推進員が配置されています。

丹波市立船城小学校では、地域学校協働活動推進員が図書室を拠点にして活動をしています。昨年度から、毎週金曜日に図書室を地域住民に開放し、学校に気軽に足を運んでもらえるようなかきつけとなるための取り組みを始めました。「子どもたちや地域住民に学校でくつろいでほしい」という地域学校協働活動推進員や教職員の想いを形にするために、地域と学校が連携して市内で不要となったソファアールを図書室に設置し、閲覧スペースを拡大しました。このような、小さな工夫をすることで、子どもから大人までが「楽しく」交流しながら過ごせる居場所を目指しています。その後、船城地区自治協議会が主催する「歴史憩い場カフェ」が小学校の図書室で初めて開催され、子どもと大人が地域の歴史について一緒に学ぶ機会が設けられました。コーディネーターの存在により、子どもと大人、学校と地域がつながる機会が増えています。



▲小学校の図書室で地域行事を開催することで、地域住民が小学校に足を運ぶきっかけになり、学校と地域のつながりを生み出している。

学校・地域・家庭の垣根を超えた、 「地域教育」の可能性

昨年度、丹波市まなびの里づくり協議会では、市民が生涯学習を通じて、生き生きと暮らしているまちになるために、丹波市における生涯学習や社会教育のあり方について協議をしました。同協議会では「第2期丹波市生涯学習基本計画」の策定を見据え、大人や子どもが「楽しく」まなび合うために、学校、地域、家庭の垣根を超えた「地域教育の推進」や、地域でまなびの場を作り、多様な人や組織をつなぐ「社会教育人材の育成」の必要性等をまとめた『「生涯学習（まなび）」を実践に生かす地域づくりの推進』に向けた取組について』の提言書を丹波市長に提出しました。この提言書では、市民が主体となって地域の課題や変化を受け止め、課題解決のために取り組むために



▲丹波市まなびの里づくり協議会
約2年をかけて、まなびを実践に生かす地域づくりに必要な仕組みや施策について協議した。

は、市民同士の「つながり」や「対話」が大切であり、「生涯学習（まなび）」は市民が楽しみながら参画・協働できる機会を生み出すきっかけとなると示しています。そして、それを実現するためには、人づくり・つながりづくり・地域づくりに携わる社会教育士や地域学校協働活動推進員等のコーディネーターの育成や活躍が不可欠としています。

これから、学びを通じた人づくりを進めていくためには、学びを支えるコーディネートの育成が大切になります。また、子どもから大人までが楽しく学びあう地域になるためには学校・地域・家庭の垣根を超えた「地域教育」を推進が必要となり、行政や関連機関の横断連携による支援体制の構築がますます重要となるのではないのでしょうか。

インタビュー

丹波市地域学校協働活動推進員 (丹波市立柏原中学校)

大槻 芳裕さん

中学生が活躍できる 地域を目指して

柏原中学校には2022年に地域学校協働活動推進員が配置され、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に取り組んでいます。推進員の大槻芳裕さんは、柏原中学校の生徒が地域とつながるための活動に力を入れています。例えば、毎年3月に開催される「丹波かいばら雛めぐり」では、生徒が、メイン会場のかいばら一番館でひな人形の飾りつけをしており、貴重なひな人形に触れ、地域について学ぶ機会になっています。開催中はボランティアスタッフとして来場者の案内などの役割を担っています。校外での活動を通じて、地域とつながりを感じることができています。大槻さんが自治協議会など関係者との連絡を取りながら、中学生が活動できる機会を増やしています。大槻さんは常に現場にいるわけではなく、時には地域の方に任せ、中学生と地域住民が自然と交流できることを意識しています。

地域内だけでなく、地域外との交流にも取り組んでいます。関西学院大学の大学生が主催し

ている「かいばらい」というライトアップイベントの際には、柏原中学校の生徒が大学生と一緒に、キャンドルライトの準備や運営に取り組みました。

今後の活動について、大槻さんは「これからも中学生を地域に出していきたい。自治会の活動でも中学生が活躍でき、大人と交流できる機会をつくりたい。コミュニティ・スクールには、大学生などの若い人に入ってほしい。生徒を地域に、地域の方々を中学校へということ意識して取り組んでいきたい」と語っています。



▶「丹波かいばら雛めぐり」で来場者の案内係をする
柏原中学校の生徒たち

コラム



社会教育士を ご存知ですか？

社会教育士は、学びを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくりの中核的な役割を果たす専門人材の称号です。2020年から始まった制度で、文部科学省が認める講習や養成課程を受講し、コーディネーター能力、プレゼンテーション能力等を身に付けた人材です。丹波市内には、現在4名の社会教育士がいます(センター調べ)。3月には市民プラザで、社会教育主事講習の報告会が開催され、3名の社会教育士から講習受講後の変化やこれからチャレンジしたいことなどが報告されました。

今年4月には3名の社会教育士によって、「たんば社会教育士コミュニティ」という団体が設立され、「子どもも大人も共に学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる社会をつくる」を目的に活動を始めています。活動の様子は、各種SNSで情報発信をしています。



▲3人の社会教育士による報告

▼SNSで情報発信をしている



たんば社会教育士
コミュニティ



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館